

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1292500012		
法人名	特定非営利活動法人まごころネットワーク		
事業所名	おおたかの森グループホームあぜみち		
所在地	〒270-0122 千葉県流山市大畔534番地 電話 04-7197-3710		
評価機関名	特定非営利活動法人ACOB		
所在地	〒270-1151 千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(21年3月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤2(兼)9人 非常勤5人, 常勤換算7.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造準耐火造り		
	2階建ての	1.2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間24ヶ月)
食材料費	朝食	400 円	昼食 600 円
	夕食	600 円	おやつ 円

(4) 利用者の概要(3月15日現在)

利用者人数	8名	男性	名	女性	8名
要介護1		要介護2		3名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 86.5歳	最低 74歳		最高 96歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東葛病院、おおたかの森病院、奈良歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、近くに国有林があり緑豊かな自然に恵まれた新興住宅地に近接しており、駅に近く交通至便な環境にある。ホームを管理運営するNPO法人はディサービスや訪問介護サービス、流山市の生きがい活動支援通所事業の業務受託や有償福祉運送事業等、幅広く事業を行っている。</p> <p>自然に恵まれた敷地の中で畑で野菜や花を育てたり、グループ内の他サービスとの交流や活用ができることや、緑豊かな中で農道の散歩や地域の人との交流が自然に出来ている等はこのホームの特徴と言える。又、職場が明るく楽しそうで、希望や意見が言いやすくやりがいのある職場風土は職員確保上の強みである。</p>
--

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価が初めてである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員にこの評価の項目を回し意見を求めた。管理者は職員の意見を集約し、法人の方針のもと記入を行った。今後は自己評価及び外部評価の意義を理解し、改善に取り組むとしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>21年度は4月の開催を予定している。会議メンバーは自治会役員、民生委員、地域包括センター職員、家族代表に施設職員で、内容は地域資源の活用、活動報告、自治会活動への参加などである。運営推進会議はホームの業務運営にとり貴重な問題解決の場となりうる。定期的な仕組みとして開催を位置づけることを期待したい。</p>
	<p>家族の声は年1回の事務局よりアンケート調査を行って収集している。事務的連絡は事務局より行い、健康に関する変化、その他変わった状況が生じたときは速やかに報告している。本人の希望等は電話や来られた時に個々に連絡をする様にしている。4月1日より施設の便り「あぜみち」の発刊を準備中である。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には開設当初より加盟し、年2回のクリーンデーへの参加、文化祭などへの見学、保育園児との交流を行っている。又、毎日の散歩での挨拶やホームで行った節分祭に来てもらうなど地域で孤立しないよう配慮をしている。高校生や専門学校の実習生の受け入れなども積極的に行っている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「地域で誰もが心豊かに暮らしていける社会を目指して、援助が必要な高齢者やその他のサービスが必要な人々に対して、自主、自立性を尊重する活動を通して、福祉の増進に寄与することを目的とする」である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の活動と打合せや月1回の月例ミーティングの機会を捉え、理念の共有を図っているが、職員間によりばらつきが見られる。	○	理念は職員の業務活動の指針となるものであり、研修やミーティングの機会などを通じ、繰り返し確認しながら理解と共有を図ることを期待したい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には開設当初より加盟し、年2回のクリーンデイへの参加、文化祭などへの見学、保育園児との交流を行っている。又、毎日の散歩での挨拶やホームで行った節分祭に来てもらうなど地域で孤立しないよう配慮をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的評価をしてもらうことで、具体的に不足している点、問題点を認識し改善に取り組むことでよりよりケアができるものと理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	21年度は4月の開催を予定している。会議メンバーは自治会役員、民生委員、地域包括センター職員、家族代表に施設職員で、内容は地域資源の活用、活動報告、自治会活動である。	○	運営推進会議はホームの業務運営にとり貴重な問題解決の場となりうる。定期的な仕組みとして開催を位置づけすることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市グループホーム協議会に参加し、そこで様々な情報を得るようにしている。今後は市ケアセンターの中にあるボランティアセンターを通じて、より深い連携を図っていききたいとしている。	○	現在のところ市との連携はあまり十分とはいえない。当法人はホームをはじめ多くのサービスを実施していることもあり、地域行政との連携は欠かせない重要事項である。より多くの接触の機会を設けることをお勧めしたい。

4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事務的連絡は事務局より行い、健康に関する変化、その他変わった状況が生じたときは速やかに報告している。本人の希望等は家族への電話や面会時に個々に報告する様にしている。4月1日より施設の便り「あぜみち」の発刊を準備中である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回事務局よりアンケートを実施している。内容は10項目よりなる簡単なものである。外部評価と合わせ、ご意見、叱責をいただくことでより質の高いサービスの向上に役立てている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職場の仕組みとして法人内で異動を行うことがあり、職員同士の意志の疎通、若手の育成等で効果が出ている。又、アットホームな雰囲気心を心がけ、ベテラン職員が若手職員の相談相手になり離職が無いよう努力している。職員の異動により利用者へのダメージが無いよう、全スタッフでフォローを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有給により外部研修を受けれるように制度化するなど職員のスキルアップを推奨している。又、毎日の活動を通じてベテラン職員がOJT訓練で若手の育成を行っている。何にも増して、言いたいことが言える、意見・希望を聞いてもらえる組織風土が強みである。明るい楽しい職場が職員を育て、定着化に結びついていることが窺える。	○	外部研修参加を推奨しているが、その報告を兼ねた社内研修やグループ独自の研修機会はない。総合的な教育システムの拡充を検討して頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	流山市には7つのグループホームがあり、協議会を結成している。会議を開催したり、個別に訪問し合える風通しのいい関係づくりをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族から入居の相談があった時には法人の多種多様なサービスを説明している。その上で見学やお試しを経験してもらい利用者にとって最良の方法を共に考えることから始めている。特に入居当初については常に職員が付き添い安心できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の人生の経験談をを聞いたり、生活の中で知らない知識を教えてもらっている。利用者は職員にいきいきと昔の事柄を話をするなどして年長者としての存在感が生きがいとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者や家族から直接話を聞くだけでなく、世間話や散歩中の何気ない言動から利用者の気持ちを推察している。また利用者や家族からの意向や情報は少しでも把握するように努め、申し送りノートに記録して職員全員の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向や希望をもとに、利用者の日常的な状況について月例のミーティングで職員が互いに意見を出し合い、総意を介護計画の中に盛り込んで作成している。アセスメントはセンター方式をもとにしているが、書式等が十分とはいえない。	○	職員の協力でセンター方式でのアセスメントに取り組もうとしているが書式が十分とはいえない。今後の充実に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の入居後3ヶ月、介護認定期間、区分変更時に定期的な介護計画を見直している。また利用者に変化があった時には随時の見直しをしている。新たな介護計画についても利用者、家族に説明し同意をもらっている。	○	介護計画の見直しについて介護認定期間や区分変更時だけでなく定期的な期間を設け、変化があった時には随時の変更をしていただきたい。
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	広い敷地内に法人の各種サービスがあり、利用者はいつでも自由に参加することができる。また緑豊かな環境の中で戸外に出かけることに重点を置き、利用者はいきいきと生活することができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院は2箇所であるが、利用者は家族対応で外来受診をしている。家族が対応できないときは職員が代わっている。利用者の中には全く受診していない人もいて、今後については往診医の検討もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	比較的元気な利用者が多いが、重度化については特別な医療がいない限りホームで対応する考えでいる。看取りについてはかかりつけ医と話し合ったが、方針を決めるところまで至っていない。今後検討する課題としている。	○	ホームは利用者、家族の意向、希望をもとに看取りについてできることできないことについて医療機関と話し合い、今後の方針について検討をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時等利用者の羞恥心を傷つけないよう配慮している。個人情報としてグループホームたよりの写真の掲載にも配慮し家族に確認を取っている。また情報管理は全て本部で行なっており、職員には退職後も守秘義務を課している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は食事作りや下ごしらえ、買い物、農作業等本人の希望に添って過ごしている。またホームの名のとおり、あぜ道をゆっくりと散歩するのも日課となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養面では栄養士に相談し、手作りで家庭的な料理を利用者と職員が下ごしらえや調理を共にしている。また全員で餃子、おはぎやケーキを作ったり、お弁当を持って花見に出かけたり、近くの喫茶店や食堂に出かけるのも楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週2～3回昼食後入浴をしているが、利用者の希望によって夜入浴することもある。時には法人内の隣接するデイサービスの大浴室を使うこともある。		
～					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は調理や買い物、書道、縫い物など一人ひとりの楽しみや能力に合わせて役割や楽しみを持っている。車に乗って外出することも気晴らしの支援となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買い物に出かけている。市の広報に紹介された催し物に参加したり、時には車でデパートやスーパーに出かけている。さらに職員は利用者が電車や路線バスで出かける機会を作りたいと検討している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアが当然と考え実行している。今後は不審者への対応の必要性も考えている。エレベーターについても利用者が自由に操作できるよう配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主訓練を含め、年2回火災訓練を実施しているが、そのうち1回は消防署の指導の下、法人全体で行なっている。火災対策としてホームは電磁調理器を使用している。また屋外には非常階段があり、実際に職員が利用者を背負って訓練している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士から献立や栄養バランスの指導を得ている。元気な利用者が多く、栄養摂取量や水分摂取量を把握をしているが記録はつけていない。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは2階部分であり、明るく広いリビングとソファやテーブルなど調度品が品よく置かれている。面会時、家族と団らんができるように部屋の隅にティーラウンジや和室があり、利用者がゆったり過ごすことができるような工夫をしている。毎日、掃除や家具類の消毒をしているので共用空間は清潔でさわやかである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	7畳ほどの居室からは周囲の緑の木々が目に映え気持ちが良い。敷地の前は国道であるが、二重窓となっていて騒音を感じさせない造りとなっている。室内は明るく清潔であるが、利用者の馴染みの家具類は少なく、生活感としてはやや殺風景な感じである。		

※ は、重点項目。

※ WAMNE Tに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。